

2017年度

「誰一人取り残さない地域社会づくり
プロジェクト」成果発表会 報告書

2017年度「誰一人取り残さない地域社会づくりプロジェクト」成果発表会 プログラム・目次

13:30	開会の挨拶	
	公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会常務理事 福母淳治	3
	日本財団ソーシャルイノベーション本部公益事業部国内事業審査チーム	
	チームリーダー 中村真美子	4

第一部 2017年度「誰一人取り残さない地域社会づくりプロジェクト」実施報告

13:40	プロジェクト概要説明		
	NPO 法人起業支援ネット副代表理事 鈴木直也	6	
13:45	できることもちよりワークショップ説明		
	一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト代表理事 渡辺ゆりか	7	
13:55	『できることもちよりワークショップ発表会』		
	(黒部市) 特定非営利活動法人宇奈月自立塾 牟田光生	16	
14:20	『松本市鎌田地区・奈川地区の取り組み』		
	(松本市鎌田地区) 松本大学特別調査研究員 塚原有香	22	
	(松本市奈川地区) 松本大学特別調査研究員 松本尚子	22	
	(松本市新村地区) 松本大学特別調査研究員 一色美月	22	
14:55	『できることもちよりワークショップと地域の方々の反応』		
	(大府市) 特定医療法人共和会 共和病院 宮川省吾	23	
15:20	第一部総括	鈴木直也	31
15:25 ~ 15:40	休憩		

第二部 パネルディスカッション(2016年度中心に実施団体を中心に)

15:40	パネルディスカッション『ワークショップ実施後の展開について』	
	進行 鈴木直也	
15:40	(入善町) 特定非営利活動法人工房あおの丘 西島亜希	34
16:00	(松本市新村地区) 松本大学特別調査研究員 一色美月	40
16:15	(名古屋市) 一般社団法人しん 本間貴宣	43
16:30	2016年度プロジェクト事業評価の視点から	
	公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 上野悦子	46
	本人中心の地域づくりの視点から 渡辺ゆりか	47
16:55	プロジェクト全体の視点から 鈴木直也	48
17:00	閉会	
	自由交流	
17:30	終了	(敬称略)

みんな つながる 地域づくり

誰一人取り残さない地域社会づくりプロジェクト成果発表会



誰一人取り残さない
地域社会づくり

このプロジェクトでは、地域が元気になるために、地域で困っている人のことを考え行動するため、「できることもちよりワークショップ(できもちWS)」を2016年に3か所、2017年はさらに3か所で開催しました。障害者、困窮者、高齢者という枠を超えて、みんなで考え、行動することをめざす研修です。

そのようなことが可能なかと思われる方、新しい手法を求めている方、成果発表会で研修を実施した人たちの報告を聞いてみませんか。

地域包括ケアの関係者、地方創生に関わる方、共生社会を目指す方、地域で活動する専門職の方、海外で地域社会開発に関わる方も、関心のある方どなたでもご参加いただけます。

2018年2月12日(月・祝) 13:30~17:00 (受付開始13:00)

定員：150名 参加費無料

会場：品川フロントビル 会議室A

〒108-0075 東京都港区港南2-3-13

(品川駅 港南口より徒歩3分/JR品川駅 中央改札より徒歩5分)



主催：公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

協力：日本財団

一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト



開会の挨拶

主催者：日本障害者リハビリテーション協会

常務理事 福母淳治

本日は連休中にもかかわらず、たくさんの方にお越しいただきありがとうございました。

この事業は私どもだけでなく多くの方々の支えによってできております。

本日は、資金の面だけでなく、いろいろな面でご指導ご支援いただいております日本財団様から、中村様、袖山様にお越しいただいております。それから会場の準備等の段階から松本大学の尻無浜先生と調査研究員の皆様にもご協力いただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

また、この事業にはなくてはならないお二方がいらっしゃいます。お一人は渡辺ゆりかさん、それから鈴木直也さんであります。お二方のご支援ご協力がなければ実現しなかったものと思っております。改めてお礼を申し上げます。

さて、この事業の発端となりましたのは、2015年、第3回アジア太平洋CBR会議を日本で開催したことであります。この国際会議にも日本財団様はじめ多くのご支援をいただき開催することができました。

この国際会議の成果を日本において生かしていくために、翌年度からの2年間、本事業を実施してまいりました。2年目の2017年度は日本財団様からのご提案により、本事業の成果を評価することにも取り組むことといたしました。本日後半にこの評価事業を担当しました本協会国際部の上野よりご説明させていただきます。

私共としましては、本事業の成果を今後どう展開していくかということが、非常に大きな課題と考えております。本日の成果発表会の内容を踏まえて、今後、共生社会実現のために国内における普及と、将来的には国際的な支援につなげていきたいと考えております。

本日は、本事業に関心を持っていただいている方々にご参加いただいていると思っております。皆様方には今後ともご支援、ご協力を賜れば幸いに存じます。

それでは、本日は長丁場になりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

開会の挨拶

ご来賓：日本財団ソーシャルイノベーション本部公益事業部 国内事業審査チーム

チームリーダー 中村真美子

こんにちは。

日本財団の中村と申します。

先週はとても寒かったのですが、今日は天気が良くてほっと一息という感じですね。

日本財団の話をしさせていただきますと、日本財団の活動理念に「みんながみんなを支える社会を目指します」という言葉があります。

こちらの事業はまさにその理念に合致したものであると考え、支援させていただいています。

2016年度のCBID研修プログラムの報告書に「日本では地域の課題が複合化し既存の制度では対応が難しくなってきた。日本の地域社会で継続されている良い実践をCBIDの視点で見直すことで価値の再発見につながるかもしれない」との記載があります。

今日の発表会では、さまざまな取り組みをされている地域の方々からの報告、その後のディスカッションと多くの方の参考になるものと思っております。

今日の成果発表会でみんながつながる地域づくりについて、各地域の人たちの行動につながり、ひいては日本財団の活動理念である「みんながみんなを支える社会」が実現されることを願っています。

本日は皆さんの発表を楽しみにしております。ありがとうございました。

第一部

2017年度「誰一人取り残さない 地域社会づくりプロジェクト」実施報告

▶プロジェクト概要説明

NPO 法人起業支援ネット副代表理事 鈴木直也

▶できることもちよりワークショップ説明

一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト代表理事 渡辺ゆりか

▶(黒部市) 特定非営利活動法人宇奈月自立塾

牟田光生

▶(松本市) 鎌田地区・奈川地区

塚原有香 松本尚子 一色美月

▶(大府市) 特定医療法人 共和会共和病院

宮川省吾

プロジェクト概要説明

NPO 法人起業支援ネット 副代表理事 鈴木直也

ご紹介いただきました鈴木です。本日は精いっぱい務めさせていただきますのでよろしくお願ひします。

今回の「誰一人取り残さない地域社会づくり事業」は、日本国内で今、6ヶ所で実践されています。昨年は3ヶ所、今年は3ヶ所動いています。私たちがなぜこれを行っているかということなんですけれども、地域社会から取り残されてしまいそうな人たちって結構いっぱいいらっしゃる。そういう人たちが、そうであっても、つながりを取り戻して暮らしていけるように、この「星」の中の言葉（パワーポイントの説明）が一つでも取り戻せるように、二つでも三つでも取り戻せるように。こういう理念というか、大きな願ひを込めて進めている事業です。

具体的には手を挙げてくださった地域のリーダーを発掘しよう。そしてそのリーダーが中心となって地域の関係者に声かけをしてワークショップを開催しましょう。そして参加した人たちにフォローアップをかけ、仲間が増えていく中で、お互いに助け合う地域にしよう。大きくいうとこのような事業を2年間、進めてまいりました。

この事業は大きく二つのアプローチがあります。一つは地域へのアプローチです。地域をどうやってよくしていくのか。地域の課題を見つけて、その課題にアプローチをしていって地域を変えていこうというものです。それから個人。地域だけじゃなく個人一人ひとり、抱えている課題は違って、多様です。ですから個人の課題に向き合って、その個人の未来を変えていこう。これらを同時に実現していこうということです。

地域の課題と個人の課題は実は連動していますから同時に変えていくしかないんです。そのときにワークショップを機能させることで、目指す未来、誰一人取り残さない地域社会を作っていこうということを考えています。この地域の課題をどうやって把握して変えていくのかというところで、先ほどからCBIDとかCBRという言葉が出ていますが、WHOが作ったマトリックスが25項目あります。このマトリックスを使って地域の機能を診断して、地域を豊かにしていこうアプローチになります。

もう一つ、個人へのアプローチですが、個人の悩みやニーズ・必要な支援を我々の方で作成しています。これで個人の診断をかけて、課題を浮き彫りにして、具体的な支援をしていこうということです。こうして一人ひとりの未来を変えていこうと考えています。

ワークショップをその中で使うのですが、ワークショップをすることによってネットワークが、地域が、もう一度再構築される。地域ではネットワークが生かされていないとか使い切れていないとか、いろいろあって難しいんですが、それを機能させていこうとプロジェクト全体を進めています。

その中で一番キーになるのはワークショップです。ワークショップについてはこの後渡辺さんから説明があります。

今日は実はオリンピックを開催してしまして、皆さん、オリンピックよりもこの会を選んでいただいたということで本当に感謝しております。私も本当に気にはなっているんですね、金メダルをとれるかどうか。でも、私たちは私たちが金メダルに相当するような一日になればと思います。

できることもちよりワークショップ

できることもちよりワークショップは、複数の困難を抱えている人の事例に対して、ひとりひとりの「できること」を「もちよる」ワークショップです。事例の方に対して、様々な立場の参加者が、まず自分の「できること」を考えてみる、という小さなアクションからスタートし、最後には全員の多様な「できること」を共有します。事例の方の思いを中心に据えて、各分野の専門家や一般市民が同じテーブルで対話することで「どんな人も孤立させない方法」が地域に必ずあるという手ごたえを、体験するためのワークショップです。



- ◇愛知県3地域×3回の開催 計86団体の参加
- ◇他都市（さいたま市、富山市、岐阜市、松本市、富山市、安城市など）でも複数開催
- ◇ワークショップアワードマニユアルが、関連ホームページで紹介される



できることもちより ワークショップについて



一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト
代表理事 渡辺ゆりか

事前準備

地域資源
の発掘

「出会う」「知り合
う」

- 地域にどんな人たちがいるのかわかる
- ワークショップの参加依頼を通じて、
想いの共有をする

当日

ワーク
ショップ

「できることをもちよる」

- 多様な技・スキル・ノウハウ・アイデアなど、
できることをもちよることで・・・
- ステップ① お互いのできることを認め合う
- ステップ② つながることのできることを考える
- ステップ③ それでも足りないことか何かを発見す
る

その後

チーム化

「リアルな連携をスタートす
る」

- 地域に合わせた、実行力と柔軟性のある
「誰も孤立させないチーム」を立ち上げる

「わかってはいるんだけど、
しかたがないんだよね・・・」

穴にいる人って
どんな人？

◆ ワークショップ当日の流れ

- STEP①
 - 事例を読む
 - 事例に対して「私ができること」を考える
- STEP②
 - 「できること」を出し合い、まとめる
 - 「できないこと」はSOSを出して支援を募る
- STEP③
 - 他のグループのSOSに対して支援に向かう
 - 最初のグループに戻り、意見を共有する
- STEP④
 - お手紙を読む
 - あるべき未来について対話する

7

◆ できることもちよりワークショップは、事前準備から地域開発>がはじまります！

<事前準備のポイント>

1. ワークショップへの参加依頼

- 来てほしい人を主催者が選び、足を運んで参加を呼びかける
- 地域のキーパーソンへの呼びかけ
- まだ知り合っていない地域に潜むキーパーソンの発掘

2. 地域にマッチした事例の作成

- 参加者を意識した、地域の実状にマッチした事例を主催団体のメンバーやキーパーソンが作成する。
- 地域の課題や関心に着目し、<自分たちの問題>にする

このワークのねらいと参加のポイント①

1. 自由な発想でポジティブに
 - 本日のワークは、今日ご参加の皆さまの「できること」をななるべくたくさん出し合います。
 - ひどいではできないことを、地域のみんなで考えると、どんなことが起こるか!? その可能性を、限界まで知ることを目的にしています。
 - ふせんに書いた支援や応援は、今後の実施を約束するものではありません。重く考えすぎず、できる可能性があるものをどんどん書いてください。

参加の方の関心・関係分野	関係があります		関心があります	
	堂知県内	他地域	堂知県内	他地域
権利擁護	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
秋 労	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
障 害 者	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
ホームレス	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
高齢者	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
外国人	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
D V	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
子ども	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
母子	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
医療・福祉・保健	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
居場所	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
労働・法務	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
その他	●●●●●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●

自分ができることを書き出します



このワークのねらいと参加のポイント②

2. 専門性をはなれたく個人の視点>を大事に
- 事例はいろんな角度から支援が出しやすいうように作られています。最終的な問題解決を目指してしまうと、不足している情報が沢山あって行き詰ってしまいます。今日は「解決」を目指すよりも、より多くの「できること」をみんなを出し合うことを目標にしてください。
 - 特に「個人としてできること」は、支援者でなくても、困っている人のために「できることがある」ということを知るための大切なことになります。どうぞ遠慮なく、積極的に出してください。

ちよつと不謹慎かも知れませんが、今日は自由な発想で、沢山の思い付きを出して、ポジティブに楽しくご参加ください。

「できること」を発表、整理します



事例を読みます



あなたが今まで、
「できること」を提供してきた事例の中で、
「最も気になる」人物について考えます。
どんな未来が見えるでしょうか…？

いいな！と思った場所にシールを貼ります



17

成果を共有します



「ご本人からみさんに、
お手紙が届いています」



20

私たちが望む未来について話します

お手紙をくださった方が、どんな未来を歩むことを、
私たちは望みますか？
またどうすると叶うでしょうか？



◆ワークショップ後のチーム化

できることもちよりワークショップ

できもちネクスト!
リアルできもち会議

地域独自の
プリアクション
の創発

いつでも・どこでも
「できもち会議」

やってみて...

感動

- 凄く真剣に取り組んでくれて...

新鮮

- 普段と違う見方で...

必要性

- 知ってもらおう...
- 改めて集客の難しさを感じました

目指す地域の未来

5年後

地域における、総合的な支援体制が構築でき、機能的な生活困難者への支援体制が可能になる。空家再利用などの総合的な利用が官民協働で実施できる。若者が作る新しいNPOの具体的な行動を開始。

3年後

地域住民や行政、支援機関の協力的な支援体制が、有機的に機能できるよう目指す。

空家などの実用的な利用を開始する。生活困難者一人ひとりの能力に応じた労働環境の具体的な内容についての指針をまとめる。

1年後

医療、労働、住居関係の支援機関において、それぞれの情報を集約しそれぞれが熟知で可能な生活困難者への支援を目指す。空家などの情報を民間、行政を問わず統合する。

事例に込めた思い...

- 8つ位事例を用意した
- どれもリアルな事例を少し修正した
- リアル過ぎて...
- 制度の谷間を作っていて感じて感じた...

「できることもちよりワークショップ発表会」 発表パワーポイントの説明

特定非営利活動法人宇奈月自立塾 牟田光生

●団体紹介と黒部市の現状説明と特色 ……パワーポイント 1～9頁

団体の特色として、ニート・ひきこもり・生活困窮者・生活保護者・児童養護・障害者の就労支援を行っています。

さまざまな支援を行っていますが、立ち上げ当初は不登校児のフリースクールを横浜で行って来ました。

ただ、現在の不登校・ひきこもりの要因も多岐にわたっており生活困窮者や生活保護者、発達障害や精神疾患等さまざまな問題が背景にあります。

支援と一口に言っても多様化しており、それらさまざまな問題に対応出来るよう当法人では事業を展開しています。

また、生活困窮等の観点から児童養護支援である、自立援助ホームも昨年より受託運営しておりさまざまな角度や制度からのとりこぼれのないよう支援を展開していきたいと思っています。

ただ、母団体が横浜でスタッフも地元の間が少なく、地域のツテが非常に薄い。もっと地域と繋がりたい！思いと、隣町の工房あおの丘さんからの紹介があり、「できることもちよりワークショップ」の開催を決めました。

思いとしてはこれから、「できることもちよりワークショップ」のような研修機会を通じて「我が事・丸ごと」地域力強化推進事業を皆で受託し地域の為に行うことが出来ればと思っています。

他のさまざまな支援を行っている団体とインクルージョンしていきたいのですが、小さな地域でありNPO等の団体も少ないのが課題です。

黒部市の紹介として、人口規模や産業形態、地域の課題として海側（旧黒部市）山側（旧宇奈月町）で地域格差があり、地区によっては高齢率が5割を超えるところもあり、塾等の学習機会の格差も生まれています。富山県として生活保護率は0.33%と全国一番低い状態だが、黒部は1.71%と全国平均水準、人口の少なさから1件の増減でパーセンテージは大きく変わってきますが、高い傾向にあると感じています。

データを集めていく段階で課題も改めて考えさせられました。現場の温度とデータを比べて考察する機会ができて良かったです。

●事例に込めた思い…パワーポイント 10～11頁

準備段階で8つ事例を出して検討しました。黒部市で起こった生の事例もあり、大都市圏の社会問題ではなく小規模都市でも大変な思いをしている事を知ってもらいたかったです。

採用しなかった事例も一つ一つとても思いがあり、血が通っている事例でした。ただ、あまりにも救いようが無い事例もあったので、検討段階で参加者が答え辛いだらう事例を外す事にしました。皆で考え取り組みやすい事例と黒部の身近で起こった事例とを採用し、本番では使用しました。

事例を作成している中で一つ一つ我々も問題の掘り起こしができ、改めて制度の狭間を感じました。制度が無ければ救われないがグレーゾーンで制度からこぼれてしまう。困り事を抱えた人たちをどう支援するか？かゆいところに手をどうしたら届けられるか？を改めて考えさせられました。

●ワークショップをやってみて…

改めて…集客の難しさを感じました。当日も台風に選挙に重なり、団体としても秋でイベントが重なりそういった事も考えなければ、と思いました。

集客を手伝って頂いたキーパーソンの方々に本当に感謝しております。

また、人づてに来られた方も含め新しい繋がりが出来たのが嬉しかったです。

集まって頂いた皆さん本当に「真剣」に取り組んでいただいて熱い時間を過ごせたのではないか？と思っております。また、事例に対して色々とお出して頂いた意見に「新鮮」さを感じました。どうしても考えが枠にはまりがちになるのを改めて考えさせられたように感じております。

また、我々を含めこんな困り事を抱えた人が居ると言う事を「知って」もらう機会になったのでは？と思っております。どうしても現代社会における「自己責任論」など難しい部分がありますが、皆で困り事を解決していく。寄り添いキーになる人が伴走しながら、地域の繋がりでとりこぼしのない地域社会を創っていく。静岡方式や色々支援方法はありますが、一つ一つの地域において一番あったやり方で皆が住みよい地域社会をみんなの手で創りあげ、その一助になれば…と思っております。

『できることもちよりワークショップ発表会』（黒部市） 宇奈月自立塾 代表質問

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 上野悦子

上野▶ 牟田さん、発表ありがとうございました。CBID って実は障害者だけじゃないんですよね。日本でいったら困窮者の方とかひきこもりの方とかが入ってくるんですが、どうしても障害者中心ということで私たちも実施してくださった方と出会ってきました。そういう意味では、全国のひきこもりの方の支援とか、子ども・若者の支援をしていらっしゃる団体である牟田さんとは、やっと一つのめぐり合いになったなという感じがしています。障害者中心ではないところでの実験的な実施ができたのではないかと思います。その上で質問させていただきます。

あおの丘さんからの紹介で、この研修をやってみませんかと言われたときに、牟田さんとスタッフの皆さんは、すんなり受け入れられたのか。あるいは戸惑ったのか。その辺りをお聞きできたらというのが一つです。

それから、事例がこの研修の非常に大事な部分ですが、事例を作る際に、難しかった点をもう少しお聞かせいただければと思います。よろしくお願いします。

牟田▶ あおの丘さんから話を伺ったときに、本当にすんなりではなく、スタッフの中でいろいろ迷いました。なぜ迷ったかという、最初から、人が集まるのかどうかという不安と、僕らでできるかなという不安。やはり事前の準備といった問題がありますので。ちょうど団体のいろいろな行事も重なっていたときで、同じ思いでできるかなというところを感じました。スタッフの中でも、積極的にやろうという声よりも、同じだからぼちぼちやればいいんでしょうみたいな、温度差が多少あったのも事実です。

でも、やってみて、スタッフのレベルアップにもつながったし、思いも持ってもらえたかなという部分もありました。昨年、ファシリテーターで入るときに、人数も足りなかったりしたので、社協の人や、あおの丘の方からも来てもらってやれることができたのかなと思います。

事前に難しかったのは、一つひとつの事例って一気に来るわけではなく、自分で書いていて、新たな気づきがあったり、もうちょっとこうしたらよかったかなと。現役で走っている事例もあれば、過去に支援した事例も含まれてという形であったので、目立った方がいいんだろうみたいな感じで作れば作るほど難しさにハマリ

気味になったという部分もありました。

技術的なところで、どうしても視点が本人目線ではなく支援者目線で書いてしまったようなところも修正する難しさもありました。

ただ、一つひとつの事例にその人というイメージがある中で作っていったので、その人の人生を、もうちょっとこうしてやればよかった、ああしてやればよかったという部分もありました。

実際、本当に書いた事例でボツになったんですけれども、亡くなった方がいたんですね。最後の手紙のところ、天国からの手紙になっちゃうね、これはやめておこうか、みたいな形になってしまって、難しいねということを感じました。ただ、その子の事例というのは、いろいろ知ってもらいたい部分でもありましたし、社会問題化しているところでもあったので。伝えられなかったけれども、先月、うちの指導者研修の中でも挙げさせてもらったりして、自分の中でちょっとすっきりした形だったんですけれども。あまり一般の人に対してはディープな内容かなというところもあったりしました。

難しさについては、技術的なところと、たくさん事例はありながらも厳選する難しさを非常に感じました。その中で、制度で救えない問題もたくさんあるんだなというところに気づかせてもらえたかなと思っています。

地区概要

(平成30年1月1日現在)

昨年29年度は新村地区(市郊外)で実施

鎌田地区

・人口:19,426人
(男:9,937人 女:9,489人)
0~14歳 14.8%
15~64歳 63.8%
65歳~ 21.4%(高齢化率)

・市街地

奈川地区

・人口:717人
(男:341人 女:376人)
0~14歳 5.9%
15~64歳 45.9%
65歳~ 48.3%(高齢化率)

・中山間地

松本市 鎌田地区・奈川地区の取り組み

松本大学地域総合研究センター 特別調査研究員
鎌田地区 塚原有香
奈川地区 松本尚子

実施概要

鎌田地区

- ・ 11月11日(土)
13時30分~16時30分
- ・ 参加者:25人
- ・ 内訳:住民、大学生、
行政、専門職

奈川地区

- ・ 11月16日(木)
13時30分~16時30分
- ・ 参加者:19人
- ・ 内訳:住民(地区内外)、
歯科医師、行政、
専門職

住民・行政・専門職との
顔の見える関係ができていたから!

団体紹介

- ・ 松本市概要(平成30年1月1日現在)
- ・ 人口:240,342人(男:117,745人 女:122,597人)
0~14歳 13.3%
15~64歳 59.3%
65歳~ 27.4%(高齢化率)
- ・ 35地区 地域づくりセンター
- ・ 松本市地域づくりインテーン



(松本市と松本大学が協働実施)

専門職・地域との連携

- 町会長
- 民生委員
- 行政（地区担当職員）
- 地域づくりセンター長
- 社会福祉協議会
- 地域包括支援センター

「地域ケア会議」としての位置付け可能性？

成果

鎌田地区

- 地域ケア会議にミニでもちWS入れた
- 介護保険事業所へのアプローチができた

- 合意形成が難しかった
- ミニでもちでは仲間づくりまで持ち込めなかった

奈川地区

- 協議会（福祉部門）の話し合いの場をケア会議と位置づけ、その手法にでもちWSを持ち込んだ

- そもそも話し合いの場に住民が出てこない
- 土地柄“できること”が出しにくかった

地域包括支援センターとの関わり

- 事例
事例テーマの提案

地域課題の洗い出し
困りごとを抱えた人

ニーズ調査

事例設定

鎌田：最終目標が地域ケア会議
奈川：協議会に活用、企画から協力

『松本市 鎌田地区・奈川地区の取り組み』 松本大学 代表質問

一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事 渡辺ゆりか

渡辺▶ 松本の皆さまは、私の団体、「できることもちよりワークショップ」を開発した団体が、「できることもちよりワークショップはこういうものだ」というふうに勝手に様式化していたことを易々と打ち破ってくださいました。というのは、今まで「できることもちよりワークショップ」って、困り事を抱えている人を知っている支援者がその事例を書き、その事例に必要な人たちを呼んできて仲間作りをするというのがスタイルだったのです。ですが、松本の皆さんは、支援者のいない、支援者と地域の一般住民の間をつなぐハブの役に徹してくださいましたね。そこに「できることもちよりワークショップ」を使ってくださったのはすばらしいなと思います。

ですので、集客も、普通「できることもちよりワークショップ」をやると、7対3で、支援者が7、他の方が3ぐらいなんですけど、松本は見事にそれが逆転してまして、なんと塚原さんに呼ばれたから来たというような人たちが、「私たちにもできることがあるんだ」、「普段のお節介って自信を持っていいんだね」と言って帰ってください。支援者の方は、そのお節介をください、ぜひ次の支援のときに使わせてくださいという、まさに地域の困り事がその人の問題ではなく地域の問題となった瞬間を毎回目の当たりにさせていただきました。この3人の若い「地域づくりインターン」のみなさんが地域に踏み込んでいくことで確実に地域の考え方を変えている。素晴らしい試みであり、素晴らしい大学だなと思いました。

最後に私から一つ質問です。

「できることもちよりワークショップ」をやって、さまざまな苦労や喜びや感動、いろいろなことがあったと思うんですが、お一人お一人、一番印象的だったことを教えてください。

塚原▶ 鎌田地区は、奈川地区と違って人口が大きいということもあって、地域の困り事というものに対して関心が薄い方が多い印象があります。そして、町会役員を担っている人にも温度差がありました。ですが、町会長のお一人が、「できることもちよりワークショップ」をやった後に、「ここまでやったら、次はこの人のために行動指針を考えてアプローチを考えて目標を立てなきゃいけないよね」という意見が出てきました。今までの事例検討などのワークショップでは、その人のためにここまでやろうということを書いてくれる人が少なかったんです。それが「できることもちよりワークショップ」をやったことによって、そこまで考えてくれる住民の方がお一人増えたということが、私の中で感動的でした。来週行われる「ミニできもち（地域ケア会議）」でも、またそういうふうに思ってもらえる住民の方が一人でも増えればいいかなと思っています。

松本▶ 奈川地区ですが、私は、新村地区、鎌田地区のファシリテーターとして入っていたんですが、その中で奈川地区がとても変わっていたというか、意見の出し方も違いますし、意見で出てくるものが地域に土着しているものが多く、出てきたときにびっくりしてしまいました。奈川らしいなと思ったんですが、どうしたらいいのかなど。グループの中にファシリテーターさんも驚いていたというか、どうしたらいいのかと思っていたかもしれないです。自分のできること、地域でできること、個人と地域がイコールになっているところが奈川地区の特徴だなとあらためて感じる機会となりました。

共和病院

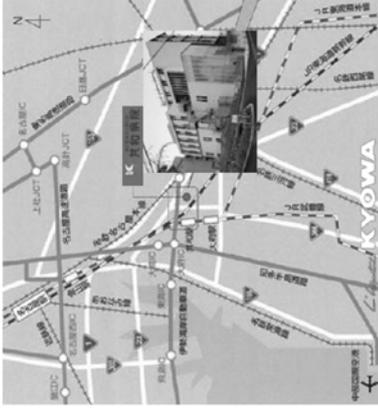
病床数287床:精神科病床207床 内科療養病床80床

理念:『優しい医療・楽しい職場』



Logo: *Agencia* KYOWA

地域としての変化



- 地元自動車産業の成長などにより、工業をはじめとする雇用の拡大。
- 名古屋市の発展により、ベッドタウンとして人口が増加。
- 人口の増加や交通の発展により、物資輸送から人の移動ルートに。
- 古くからの住民と新たな住民、または外国からの労働者やその家族。
- 近年はスポーツでも注目されている。

Logo: *Agencia* KYOWA

大府市の地域の主な課題

- 障がいを持つ方が地域でチャレンジや失敗する機会が少ない。
- 障がい者や高齢者が住みよい場所に暮らせていない。
- 精神疾患や障害に対して関心も低く、ニュースなどの報道により事実と異なるイメージや偏見が先行している
- 事故やトラブルのリスクやそれを回避するための負担が大きい。
- 個々のケースに応じた地域の社会資源に何があるのかわかりにくい。

Logo: *Agencia* KYOWA

共和駅の風景



- 都会でも田舎でもない地域
- 大府市人口:91,623名 世帯:38,201

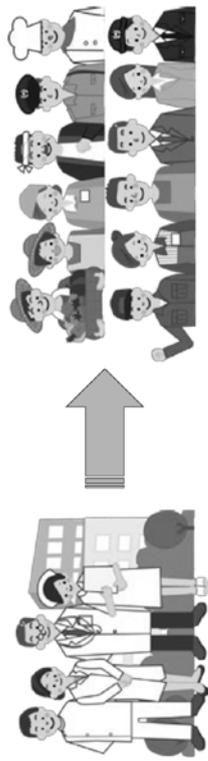
Logo: *Agencia* KYOWA

今回の事業の理念・目的

理念	『誰もが自分らしく生活できる 地域の実現を目指します』
	<p>① 自分らしく生きたいという思いをみんなが支えて実現できる地域を目指します</p> <p>② 誰もが障がいについて理解し、助け合える地域づくりを目指します</p> <p>③ 誰もがどこにでも自由にたつなげる地域の実現を目指します</p>
目的	

最初の参加依頼(集客)の方向性

•退院後の困りごとに医療がキーマンとなることは少ない。

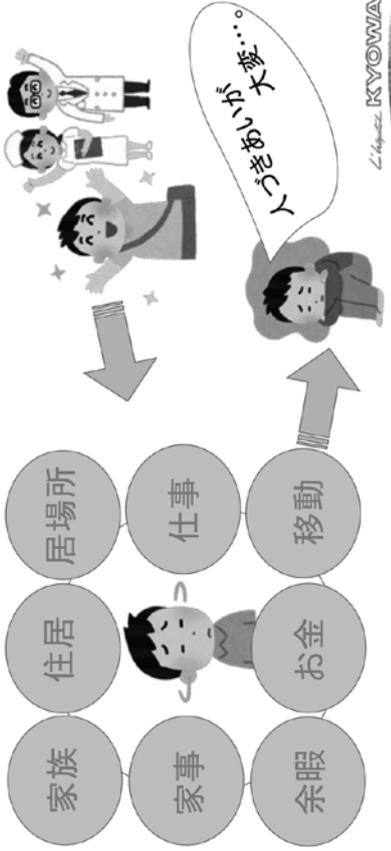


•退院後の困りごとと解決のキーマンや支援できる方を検討。

企業

住居	不動産屋				
生活	福祉用具	郵便(配達員)	〇〇運輸	〇〇急便	
移動	自動車企業	鉄道会社	バス会社	タクシー会社	
就労	愛〇 (地元企業)	明〇 (地元企業)			
飲食	飲食店	喫茶店			
商店	コンビニ	量販店		スーパーマーケット	
情報	情報誌				

患者さんの実際の生活をイメージ



KYOWIA

実際の企業への依頼の中では...

はい！？
何言われているのか全く、
意味が分からないんですけど...。

広告が半ページで〇〇円ですよ。
違うんですか？
詳しい話をしたい！？
...忙しいので、今回はすいませんね。

KYOWIA

行政機関・教育

安全	後見センター	福祉	福祉系大学生
福祉	市役所福祉課	福祉コーディネーター	
就労	ハローワーク		
教育	小中高校教員	専門教員・学生	福祉系大学生

KYOWIA

う～ん、わかりました。
朝の従業員のミーティングで、
話してみますね。

チラシですか...もらっておきます。
従業員の目につくところに貼っておきます。

KYOWIA

市民：民間団体・自治活動・ボランティア

民間団体	NPO法人	社会福祉法人	
自治活動	自治会	消防団	
ボランティア	商工会議所	シルバー派遣	ピアサポーター
その他	家族会	賃貸の大家さん	弁護士
	近隣住民		

交渉による気づきと考えの修正

- ・日曜日の開催 → 医療福祉系の研修との違い。
- ・医療福祉系の交渉であれば、組織とともに個人にも参加を依頼。
- ・今回、参加協力が得られなくても、このような取り組みを知ってもらえることも成果の一つなのではないか。
- ・企業への交渉は継続。しかし今回の参加依頼のみではなく、できることもよりワークショップの趣旨についての説明を主体。
- ・企業の広報や商店の店主のみではなく、顔なじみや知り合いの店員などに「ぜひ、あなたに参加してもらいたい」という交渉。

大変な取り組みをされてるんですね。私どももできることなら協力したいです。上司に確認してお電話いたします。

【2日後に電話が入る】

先日はありがとうございます。結果から申しますと、一つの団体の取り組みに参加をするということは公共の観点から困難との返答でした。私どもとしても今後、一層そのような視点を重要と鑑みて…

交渉からできることをもちより

今回ウチは協力できそうもないけど、そういうことに興味のある人なら何人か知ってるから、その人に聞いてみるといういかも。連絡先を教えますね。こちらからも一報、入れておきますよ。

まさに、神、降臨！！

協力なんて出来るわけじゃないでしょう。日曜日なんだよね？？
どれだけ忙しいと思ってるんですか？

**交渉に当たったメンバーの多くが
散々な結果を持ち帰り、
お通夜の様なミーティング**

参加者の感想(アンケートより)

- 自分の働いている事業所(仕事)が地域の人に情報として届いていないことがわかり、いかに地域の人に周知して連携をとるかの必要かがわかりました。
- 様々な人が集まることで解決策が出てくるのは良かった。実際に案を持つ人と支援を必要とする方を引き合わせる制度が必要となると思う。
- 福祉医療関係以外の方々がいらっやったこともあってか、職種にとらわれない発想に出会えてとても楽しかったです。ただ、楽しかったで終わらないためにはどうしたらよいのでしょうか？

△ Kyowa KYOWA

△ Kyowa KYOWA

参加したいです。
でも一人だと行きづらいな。
友達を誘ってもいいですか？
わたしたちとうまく話せないと思うから、
今から一緒に行ってもらえますか？

趣旨を知ってもらうことで
他の人も紹介してもらええる。

- 本場に幅広い分野の方々が参加され、地域での支援が点から面になっていくのだと思いました。

- 異業種の方との「できることもちより」は本当に楽しかったです。制度を理解されているからできる提案、気持ちができるからできる提案、地域として…。その立場だからこそできると言うのが聞けて良かったです。

- 様々なステークホルダーと話ができてとても良かったです。企業の中でCSR担当ですが、住んでいる地域との関わりが無かったのでのよい機会でした。

△ Kyowa KYOWA

△ Kyowa KYOWA

ワークショップの様子



課題

1. 事例を用いた今回のワーキングショップの成果を
実際の支援に活かしていく方法の確立
2. さらなる地域の力の発掘のための取り組み継続や
フォローアップの実施
3. 病院という組織のため、組織内の一部の活動と
ならないよう、組織内外への啓蒙や伝達が必要

• 人が集まることで大きな力が生まれることを改めて実感できました。
意見をしっかりと出し、それに多くの人が声を寄せてくださる、
できることはたくさんあると気付けるしくみで多くを学びました。

• 現場で活躍されている方々、地域で活躍されている方々と意見が
交換できたことが今までにない経験で本当に勉強になりました。
事例が身内に近いような内容であったこともあり、色々な意見を聞くこ
とができて本当に勉強になりました。

• 「できることもちより」を現場レベルで実践することが、
「事例」にあげられたような困難を抱えた人の役に立つことに
つながるようこれからも皆さんと一緒にがんばります！

• ぜひこれからも継続していきましよう。深めること、広げることが
大切だと思います。よろしくお願いします。

• 家族、仕事に加えて地域で生かされていることもあると思いました。
老いは全ての人に順番できます。
一人一人ができることがあると知る機会になりました。

参加された方内、21名の方が
「今後も取り組みに協力したい。」と
連絡先を記載してくれました。

『できることもちよりワークショップと地域の方々の反応』 (大府市) 特定医療法人共和会 共和病院 代表質問

NPO 法人起業支援ネット 副代表理事 鈴木直也

鈴木▶ こうやって地域の方にどんどん話をしに行くと、かえって地域の中で関係が悪くなった人がいるんじゃないかと心配したんですが、その点はいかがでしたか？

宮川▶ 悪くなったのではないかと感じたことはありました。しかし、交渉した方には開催した後の報告を必ず伝えるということをしたら、「行きたかった」とおっしゃる方が多かったです。ちゃんと、意図を伝えたり、後からでもこういう目的であったということを伝えたりすることで、ケンカ別れにならないようにしています。

鈴木▶ 地域でどのような活動をされたのか、もう少し詳しく教えていただけませんか。

宮川▶ 実際、私たち、支援の対象者は入院されている患者さんが大半で、退院される患者さんと一緒に、この地域で生活するにはどういふところがご本人の困り事になるかというのを、ご本人と一緒に話し合ったんです。コンビニが遠いとかバス停が遠いとか、あのバス停まで行くのに横断歩道がないから走って渡らないといかないとか。そういったところを一個一個解決といふか、発掘していくということですね。困り事を発掘していくということだと思います。

鈴木▶ つまり生活圏をすべて歩いて？

宮川▶ そうですね、2例くらいですけど、その方の生活ということで回りました。

鈴木▶ 本当に正面突破といえますか、地道に行動されましたね。だからこそ見えてきたもの、そして信頼みたいなものが後からついてくる。そんなことをすごく感じました。ありがとうございます。

第一部 総括

鈴木▶ 厚生労働省の方で「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」というものが発表されているんですね。事例の中にありましたように、解決できないことがいっぱいあって、複合的にいろんな悩みを抱えているんですね。一つの専門機関ではダメで、子どもも障害者も高齢者も、総合的に相談に乗っていかなければいけないというのが一番目。

二番目は、サービスを提供する側も同時に家族ごと支える。あなたは高齢者だからこうしてください、あなたは障害者だから障害者サービスねと、家族が切り離されてしまうところがある。そこをまとめて家族として受け止める、受け止めていく場所が必要となる。その流れの中で「我が事・丸ごと」ということなんですけど、わかりやすく言うと、「我が事」というのは他人のことも自分のこととして自分たちで助け合いましょうということ。「丸ごと」というのは、専門サービスだけでなかなかできないこと、漏れてしまうことがあるので、丸ごと支援する体制を作っていきましょうということなんです。

「我が事・丸ごと」のビジョンを聞いたときに、我々がやっていることは「我が事・丸ごと」にすごく近いと感じたんですね。ただ、まだまだ私たちの活動は必要な場所に届いていないという気がします。ですので、もし皆さんが「我が事・丸ごと」のようなことをお聞きになったときは、近い活動をしている動きがあるよということで、ぜひ情報をつなげていただけたらありがたいなと思っています。

第二部

パネルディスカッション (2016年度中心に実施団体を中心に)

▶(入善町) 特定非営利活動法 工房あおの丘

西島亜希

▶(松本市) 新村地区

一色美月

▶(名古屋市) 一般社団法人 しん

本間貴宣

▶2016年度プロジェクト事業評価の視点から

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 上野悦子

▶本人中心の地域づくりの視点から

一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト代表理事 渡辺ゆりか

▶プロジェクト全体の視点から

NPO 法人起業支援ネット副代表理事 鈴木直也

- ・入善町人口総数：26,819人
- ・高齢者人口：7,727人
- ・年少人口：3,161人
- ・生産年齢人口：15,988人
- ・高齢化率約30%

県平均より上

- ・1世帯当たり 3.1 人

核家族化傾向

◇障害者人口◇

障害者手帳所持者数

- ・身体：1,249人
- ・療育：175人
- ・精神：68人
- 対総人口比：5.6%

特定非営利活動法人

工房 あおの丘



「誰一人取り残さない地域社会づくりプロジェクト」 成果報告会
富山県 入善町 工房あおの丘 西島亜希

平成27年、おとなり黒部市に北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」が開通されました！！入善からは、車で15分圏内。

黒部川のおいしい水と、富山湾の海洋深層水が自慢。米どころ、豊かな自然の宝庫です。

天然記念物である「杉沢の沢スギ」そんな豊富な水資源を活用して「入善ジャップ西瓜」そして「チューリップ」といった花や緑が四季折々の変化を楽しませてくれる町

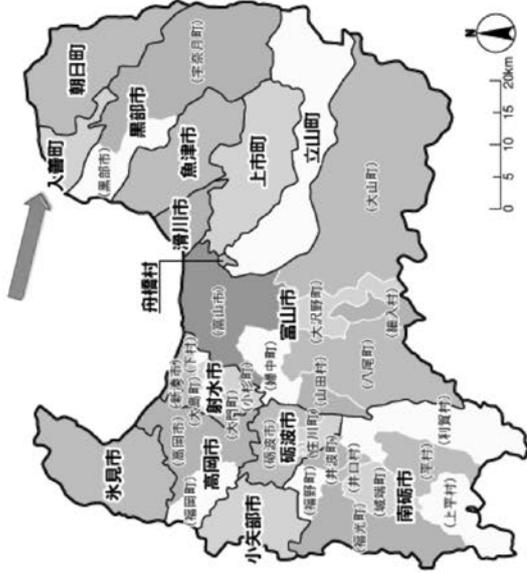
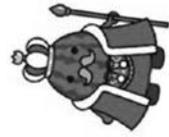
工房あおの丘が目指したい未来のコミュニティとは

障害を受け入れて、入善町で連携した療育支援を受けながら成長することができることができ、大人になっても自立して暮らし続けることができる地域づくり



入善町は、富山県4圏域のうちの新川圏域のなかの1つです。

- 新川圏域
- ・魚津市
 - ・黒部市
 - ・朝日町
 - ・入善町



平成28年11月3日開催当日 参加者の概要

所属機関・職種	人数
1 障害福祉関係	17
2 障害福祉士・作業療法士	4
3 高齢者介護職関係	3
4 保健師	1
5 言語聴覚士	1
6 管理栄養士	1
7 身体障害者協会	1
8 一般住民	6
9 個人ボランティア	1
10 利用者	3
11 利用者家族	4
12 PTA	2
13 高校生	1
14 高校教員	1
15 元義理教諭	1
合計	101

16 農家	1
17 農行員	2
18 車椅子バス客	1
19 黒部市議会議員	1
20 入善町議会議員	1
21 民生児童委員	19
22 富山県児童相談所	1
23 入善町地区社協	2
24 入善町社会福祉協議会	2
25 入善町商工会青年部	5
26 地域情報サイト	1
27 自営業(PC関連)	1
28 日本財団	1
29 日本障害者リハビリテーション協会	1
30 赤おの丘職員	15
合計	101

特定非営利活動法人 工房あおの丘

工房 あおの丘

のびのびbe-サポートあおの丘

- 放課後等デイサービス
- 児童発達支援事業
- 保育所等訪問支援
- 同行援護事業
- 障害児相談支援事業
- 日中一時支援事業
- 移動支援事業

- 就労継続支援B型事業
- 自立訓練(生活訓練)事業
- 生活介護事業
- 就労継続支援A型事業
- 同行援護事業
- 計画相談支援事業
- 日中一時支援事業
- 移動支援事業

1. できることもちよりワー
クシヨップの開催から感じ
たこと

事例1: しっかり仕事をして、お給料をもらえるようになりたい。

40代 女性

事例2: 大好きなお父さんと一緒に仲良く暮らしていきたい。

10代 男性

事例3: 幻覚や幻聴に苛まれる不安な日々、悩み...
一人でも自由に安心した生活を実家で送りたい”

40代 女性

事例4: 障がいを持つ子ども2人を育てている母親の悩み...
“子どもの障がいを受け入れて、私自身がリラックスし
ながら、子育てをしたい。”

30代 女性

事例5: 誰も俺の苦勞を分かってくれない
認知症の母と精神疾患の妻をひとり抱えてつらい
という悩み

70代 男性

- ・事例へのアプローチは、障害福祉サービスと専門職とのつながりで現状維持
- ・でも、困ったときは、この人に声をかけることが出来るかも、という安心が持てた
- ・できることよりワークショップのながれと空気が消えないうちに出来ることは
- ・新規事業を打ち出す そこには経費がかかってしまう
- ・事業は出来なくても、種をまき続けることなら、出来るかも
- ・一緒にやってくれる人がいる 思いの共有が出来る人がみつかる
- ・小さなつながりから、大事にしていこう
- ・地域にあるものを活かす、地域にいる人を大事にする
- ・知らないことはもっともっとある それを知ること、支援のヒントが見つけれられるかも
- ・出来ない
- ・できることよりワークショップを、一緒に展開してくれる仲間がみつかるかもしれない

- ・つながりは確信できた 人はつながっている
- ・できることよりワークショップの開催地域でつなぐことをアドバイスされる
- ・新川地域自立支援協議会相談部会における事例検討会事例についての支援の検討に対して、柔軟に対応できるようになってきた
- ・入善町のおとなり、黒部市へ一緒に活動してくれる仲間が増えた！ → 安心感
- ・生きたワークショップを経験することが出来た（何度もワークショップの形式を経験している方から得られた意見）
- ・そこにいるご本人が、人を動かす、ということに気付いた「きつと力をかしてくれる...」
- ・困りごとを抱えた方に対する特効薬は見つけられていない...けど、寄り添うことをつづけていくこと、あきらめないこと

3. BSIにいかわ って...

2. 次のアクションは... 何が出来るだろうか 何ができているか



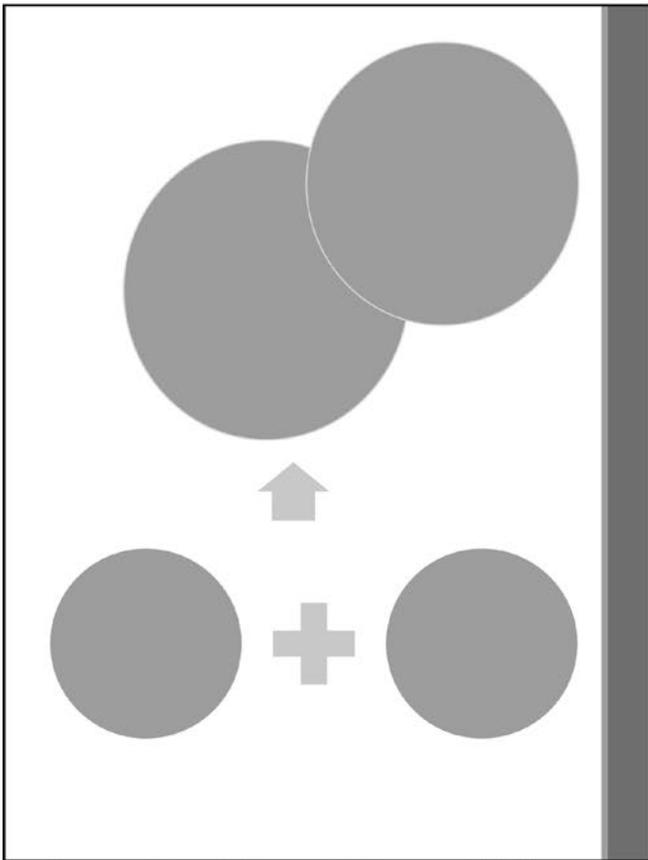
- ・ひとりでは動けない... 「まずはやってみること、続けてみることでみてくるものがあるのではないか」
- ・工房あおの丘を知ってもらうためにも、自分たちの場所を活用しよう 自分たちをPRするための機会にすれば良い
- ・参加費を徴収 お金をいただく、納得してもらおう → お金を支払うだけの価値を持ち帰ってもらう
- ・自分自身をみつめる、何かひとつ持ち帰ることが出来る時間
- ・だれかと、だれかが出会うことが出来る 出会った先に何かが動き出す、かもしれない予感
- ・成果をみない 自分たちへのプレッシャーをかけない 気負わずに、「来たい」と感じた人たちが一緒に集まってみることから
- ・自然発生的なうごきをしたのしむ...



世代をつなぐ
ステキな活動、おもしろい
アプローチを知ってみよう

普段の自分の日常では、
出会えない人と
出会ってみよう、
知ってみよう

4. 開催の様子 「やりたいことをやってみよう」



この地域で実際に起こっていることをテーマにしてみる
「海外の移住者さんに聞いてみよう」

地域の場所を活用してみる
新しい拠点、人が集う場所
地域にあった、こんな場所
BSにいかかわる機会に「行ってみよう」

5. 成果と課題

6. 今後の展開

やくそく
誰も阻言しない

1. 誰の知り得た情報は、ここから出たらシークレットで
2. どなたでも、参加出来る

多様な立場の人達
刑事さん、学校の先生、保育士、弁護士、地域の人、障がい者、芸人、自営業者、新聞記者、会社の社長、学生、外国人、福祉職、議員、公務員、専業農家、保険屋さん、狩猟屋さん、など...

- ・成果… まだみえないけれど
自分のフィールドに活かす人が出てきた
- ・続けていくこと、これが一番大変かも
- ・参加した人にとって、大切な時間になって欲しい
- ・それぞれの課題解決につながって欲しい
- ・脳性麻痺の方が、「前よりお話ができるようになった。楽しかった。」
いろんな人が、いろんな人を受け入れていく
- ・人が人をつないでくれている
「ここに連れてきたい人がいるから」
- ・「来てよかった」

ご清聴、ありがとうございました。



松本大学

地区概要

(平成30年1月1日現在)

新村地区

- ・人口: 3,237人 (男: 1,563人 女: 1,674人)
- 0～14歳 10.6%
- 15～64歳 54.7%
- 65歳～ 34.5% (高齢化率)

- ・田園地帯

松本大学

松本市新村地区の2年間

松本大学地域総合研究センター 特別調査研究員
新村地区 一色美月

松本大学

H28年度ワークショップ実施概要

- ・ H28年10月19日(水) 13時30分～16時30分
- ・ 参加者: 37人
- ・ 内訳: 住民(地区内外)、行政、専門職
- ・ 事例
 - ①「安心して病院に通いたい」というおばあちゃんの悩み」
 - ②「ひとり親お母さんの“先が見えない…”という悩み」
 - ③「うつ病を抱えた男性の“穏やかな暮らしをしたい”という悩み」

松本大学

団体紹介

- ・ 松本市概要(平成30年1月1日現在)
- ・ 人口: 240,342人(男: 117,745人 女: 122,597人)
 - ～14歳 13.3%
 - 15～64歳 59.3%
 - 65歳～ 27.4% (高齢化率)
- ・ 35地区 地域づくりセンター
- ・ 松本市地域づくりインターン



H29 10月12日 新村地区ワークショップ2回目



H28 10月19日 新村地区ワークショップ



2月8日 新村地区地域ケア会議



展開

- H29年度は実践に繋がりたいと考え、「新村地区ワークショップ2回目」を
民生委員中心に開催
- ミニでもちワークショップを前半に、
後半にケース会議を導入
- 民生委員の情報共有の場へと活用
- 地域ケア会議へケース検討を導入

今後の展望

- ・“実践”する
- ・「できること」を持ち寄る文化を
地域に根付かせるには
- ・誰がコーディネーターを担えるのか



参加者 52名



2016年度プロジェクト実施後の報告 (愛知県名古屋市)

一般社団法人しん 本間貴宣
<http://syadanshin.jimdo.com>



<成果>

想像もできなかったような
取り組みが展開



<一般社団法人しん とは？>



名古屋で、精神障害を持つ方の
社会参加を応援する団体です。



- ### <想像を超えた取り組み(例)>
- 恋活パーティー
 - お仕事体験会
 - ふすま張り替え講座
 - 夏祭り
 - マルシェ
 - 映画上映会
 - 当事者体験談
 - 障害年金サポート
 - ワークショップの開催
 - 長野旅行
 - リカバリーカレッジの準備
 - 空き家の提供 など

くできもちの醍醐味>



支援者の限界 ≠ 地域の限界



ご清聴ありがとうございました

2016年度プロジェクト事業評価の視点から

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 上野悦子

事業評価について報告します。日本財団さんが助成された事業の社会的インパクトを調査したい、ということで、評価対象の事業に2016年に行ったCBID研修プログラム開発事業が選ばれました。

調査方法は、ロジックモデルを作って指標を作るということで、この部分は日本財団さんと私どもで議論を重ねたのですが、10回くらい書き直しをすることになりました。ロジックモデルというのは因果関係を明らかにしていくというもので、研修のこういう要素が役に立ったからこういう成果が出ているということを見出していくというものです。

指標としては大きく二つに分けるだろうというところに行き着きました。一つは意識の変化、もう一つは行動の変化です。意識の変化というのはそれだけでは曖昧なので、そこをさらに掘り下げて、困り事がある人への理解が進んだかどうか、それからもう一つは、力になりたいという気持ちが進んだかどうかの2つに焦点を当てて質問を設定しました。

実際に実施された3団体と参加者にもお話を伺うことができました。実践者の方の成果については先ほどご発表を聞かれたとおりなので、私の方から参加者の視点で少しご紹介します。

回答数は松本は27名中22名、あおの丘さんは100名中70名、しんさんは50名中35名ということで、かなり高い回答率でした。

理解が進んだかなど3つの結果は円グラフでご用意しました。「自分にできることは見つかりましたか？」という問いに対して、入善のあおの丘さんは70名中38個。松本では22名中11個。名古屋では35名中25個。本当にたくさん出てきたのです。共通してわかったことは、1年前のことを覚えてらっしゃる方が少なくないということです。つまり、ワークショップで火種がついたものがずっと消えないで残っている。

これはなぜだろうかということで、質問してみましたら、参加者一人ひとりが考えを出す、という参加体験の意味合いが大きいこと、それから自分が対応をしたという体験になったのではないかということがわかってきました。それから、専門家であっても役職を離れて個人として出せることがある、ということに気がついたそうです。例えば声かけというのは、本当に小さいことですが、しんさんのところのボランティアさんとのやりとりからも、声をかけてもらって自信がついたという方がいました。

それでロジックモデルはどういう結果だったのかですが、最終報告は3月末までに出しますので、まだ途中段階ですが、いろいろ話を聞いてみた結果、理解が進んだから意欲が増えて、行動の変化に結びつくというロジックモデルで考えると、きれいな道筋でいきそうなところ、実は、理解が進んだから即行動に移すという方もいれば、関係性ができたということが大きい方もいました。例えば、あおの丘さんですと、あおの丘さんに誘われたから来ました、また声がかかるのを待っているという方もいました。そういうことから、きれいに分かれていない形で、しかもくり返されていく。インパクトがくり返されることで、行動を起こしたから次の理解がまた進む。その理解が進んだところでまた次の行動につながるというように進んでいくということが今のところわかっております。

本人中心の地域づくりの視点から

一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 渡辺ゆりか

私たちのような地域で困り事を抱えた方に向き合っている人間、専門職であったり、福祉の人間であったり、支援の仕事をしていたりする人間で、「わかってはいるんだけど仕方がないんだよね・・・」と来た人を追い返さない・全員どんな人も応援すると決めた団体は、すべての人が一団体では、立ち行かないことを知っているんですね。自分たちだけでは、何もできないということを実感しているし、それはすでに論を待たないところにきています。

ですから、いろんな支援カテゴリの人たちが「〇〇協議会」とか、「何とか連絡会」とか、「〇〇ネットワーク会議」ということで、忙しい現場を離れてチームで集まるんですが、私の経験上、それらの形式的な会議で本当のネットワークができた試しは一度もないんです。一生懸命、名刺交換をして自団体のアピールをして、必死なんです。けれどもそこでリアルな柔軟性の高い、効果性の高いネットワークができたことはないんです。

でも、このワークショップを通じると、今発表があったように、本当に地域の方が「何かしたい」「何かつながりたい」「何か連携しておもしろいことをしたい」というふうが集まってくる。それはなぜかという、理由は一つなんです。ご本人を中心としているからなんです。困り事を抱えたご本人。

この「できることもちよりワークショップ」は、事例を中心にしています。その事例も、よくあるケースカルテのように基本情報とか障害の有無とか生育歴が書かれたものではなく、そのご本人に関心を持ってもらえるよう、あわよくば好きになってもらえるように、個人的なエピソードを満タンに書きます。趣味はこれとか、家事をしているとか、病気あるけれども毎日散歩をして外に出られるように頑張っているとか。本人の頑張りやステキなところや生きざまを、きちんと載せたものをみなさんにお披露目して、まずはご本人を好きになってもらうんです。

ですので、最後はお手紙が届いて、「実はこういうふうに思っている」「こんなことに困っている」と言われたときに、「何とかしたい」「この人のために私ができることならつながりたい」という思いが自発的に生まれる仕組みになっています。

私は、このワークショップのことを「粘着性のあるワークショップ」と言っているのですが、1年以上経ってももらったお手紙が忘れられず、自分ができる機会を待っている人がたくさん生まれていると聞きます。それは、ご本人を中心として、そのたったひとりのご本人のために、みんながアクションを起こす。そのように中心にご本人がいるからだと思っています。

専門職が考えたご本人の解決方法だけが正解ではないということが、地域の方々のアクションやアイデアを見ていると本当によくわかります。本間さんの事例にもあったように、恋活パーティーみたいな、専門家では思いつかないようなことが起こるんです。

でも、それも実は正解ではないんだと思うんです。誰かを応援するというところに正解がないんですね。でも、一つの困り事を抱えている方のために、40人、50人の人が真剣に考え、自分のできることを惜しみなく持ち寄ったということに、嘘はないと思うんです。なので、これからの地域を作っていくには、悩み事を抱えた人を中心に据え、そこに集まった人たちで優しさを持ちよることが大切です。だとしたとき、困り事は迷惑なことではなく、地域にとってとても必要なことだと私は考えています。

皆さまの発表を聞いて、そして2年間の皆さんの取り組みを見させていただいて、「できることもちよりワークショップ」の効果性を改めて実感しましたし、ご本人を中心として、困り事を抱えた人から世の中を眺めなおし、そこに何が必要かをみんなで考えていく。そのことの「豊かさ」というものを改めて感じることができました。ありがとうございます。

プロジェクト全体の視点から

NPO 法人起業支援ネット 鈴木直也

お時間が来ましたのでここで質問を終了させていただきます。

ひとつ、アナウンスになりますが、今、「できることもちよりワークショップ」のテキストを開発しています。今年度には出る予定になっています。そこにはワークショップの進め方など、すべて手順を追ってマニュアルみたいになっています。ですからぜひテキストを見ていただいて、地域の中で実践のツールとして生かしていただければと思います。ワークショップの研修会も企画していこうと思っています。今後ともよろしくお祈りします。

まとめを仰せつかっているので一つだけ最後にお話しさせていただきます。奥田道大先生が考えた都市型コミュニティの類型というものがあまして、縦軸に地域性をとりまして、横軸に普遍性をとります。そうしますと地域性も普遍性も小さいところ「知らん振りする」というコミュニティのあり方があります。地域性が小さく、普遍性が大きいところは「行政を叱る」。地域性が大きく、普遍性が小さいところは「身内を守る」。それぞれコミュニティの中でいろいろ反応をされると思うんですね。ただ、地域性と普遍性の両方を持ったところが「コミュニティ」と名づけられているんですけども、我が事・丸ごと受け止め、解決するということです。

今回の事業は、もちろん「行政を叱る」「知らん振りする」「身内を守る」、いろいろな立場、それぞれあるんですけども、それらを乗り越えて、「我が事・丸ごと受け止め解決していく」、それがコミュニティを作っていくのではないかということで2年間開催してきました。今後とも皆さん、ぜひご協力をお願いしたいと思います。これをまとめの挨拶とさせていただきます。本当に長時間、ありがとうございました。

2017年度「誰一人取り残さない地域社会 づくりプロジェクト」成果発表会 報告書

2018年3月末作成

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1

電話：03-5273-0601 FAX：03-5273-1523

URL: <http://www.jsrpd.jp/>



この冊子は公益財団法人 日本財団の
助成を受けて作成しています。